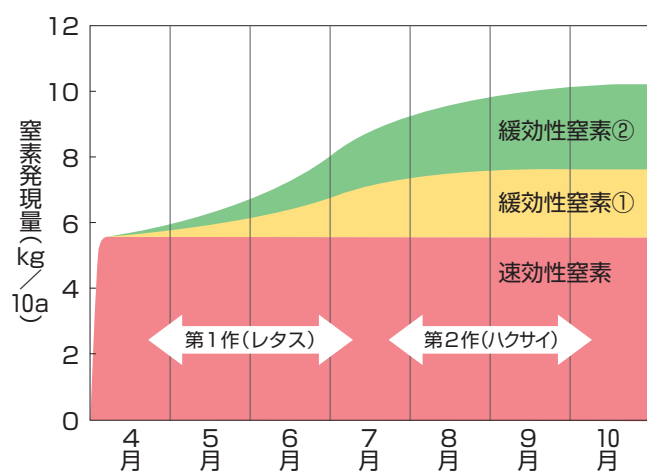


野菜の2作1回施肥法

野菜の2作1回施肥法とは、緩効性肥料（特に被覆肥料）を活用して2作分の施肥を1回で行う施肥法です。2作1回施肥の事例が多いですが、3作1回施肥なども試みられています。

マルチを外さずに次作の定植または播種ができるので、比較的短期間に複数の作物を栽培する葉菜類（ハクサイ・レタス等）で効果を発揮します。



2作1回施肥銘柄の窒素溶出パターン (例)

第1作：レタス



第1作終了後



第2作：ハクサイ



2作1回施肥の栽培風景 (山梨県)



ここがポイント!

メリット

1. 作業量の軽減と資材費の削減

労力面では、マルチ資材の張り替えや2回目の施肥作業の軽減、作物の切り替えにかかる日数を短縮できます。コスト面では、マルチ資材費の削減（省資源）が期待できます。

2. 土壌の養分環境を改善

窒素投入量の野菜畑土壌等への窒素施肥量を減らし、土壌の養分環境を改善することができます。

導入する上での注意点

肥料の緩効度や肥効発現パターンが適切でないと、第1作目の生育が過剰・第2作目が生育不足といったことが起こりますので、作付の時期や気温等に合った溶出パターンの肥料を選択する必要があります。



このような生産者にお奨め!

マルチを張り替えず有効活用して露地野菜を連続生産したい!



レタス・ハクサイの試験事例

野菜の
2作1回施肥法は
省力・省資源が
期待できます。



野菜の収量に及ぼす2作1回施肥の効果

2作1回施肥法は、1作目の大幅な減肥を望めるが、2作目において局所施肥の長所に加えて1作目の残存肥料が利用される連続作付の長所が発揮されるため、大幅な減肥が達成できる。

同法は減肥しても収量性を十分確保することができ、作業の機械化により大幅に省力化・軽労化を達成できる。

○粒状肥料2作1回局所施肥法による葉菜の収量 第1作レタス

試験区	全量 (g/株)	結球重 (g/株)	縦径 (cm)	横径 (cm)	球緊度	施肥量 (kg/10a)
①慣行施肥区	703	483	12.8	16.1	33.4	18.4
②ロング424局所施肥区	789	577	13.1	16.7	38.7	15.7
③シグマコート局所施肥区	824	560	13.2	17.2	36.8	
④エムコートBB局所施肥区	837	583	13.9	16.9	37.9	

第2作ハクサイ

試験区	全量 (g/株)	結球重 (g/株)	縦径 (cm)	横径 (cm)	球緊度	施肥量 (kg/10a)
①慣行施肥区	2.63	1.94	28.3	17.5	84.7	8.0
②ロング424局所施肥区	3.80	2.75	29.8	21.7	107	0
③シグマコート局所施肥区	3.59	2.71	30.7	19.5	108	
④エムコートBB局所施肥区	3.43	2.62	31.6	20.0	102	

(試験場所) 長野県南佐久郡川上村 標高 1,250m 淡色黒ボク土：土性 CL

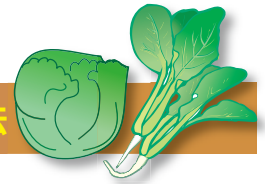
(試験期間) 施肥・畝立て・マルチ(慣行施肥区、局所施肥区)：6月23日～第1作レタス定植

：7月2日～収穫：8月16日～第2作施肥(慣行施肥区)：8月17日～第1作ハクサイ定植

：8月20日～収穫 10月8日

(耕種条件) 銀黒マルチフィルム全面被覆、畝幅45cm、株間レタス25cm、ハクサイ50cm

資料：環境保全と新しい施肥技術(越野・安田、養賢堂)



ホウレンソウ・コマツナの試験事例

野菜の収量に及ぼす3作1回施肥の効果

3作1回施肥の作付時期

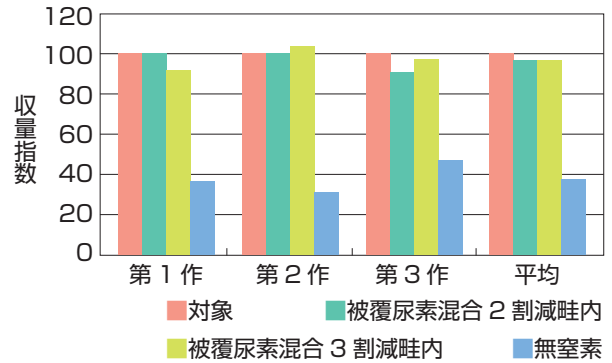
	5月			6月			7月			8月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培例 1	●—● ホウレンソウ			●—● コマツナ			●—● コマツナ					
栽培例 2	●—● コマツナ			●—● コマツナ			●—● コマツナ			●—● コマツナ		

春から夏にかけては被覆尿素を組み合わせた肥料の窒素成分は約100日の間に90%以上溶出するため、5月～8月にかけての栽培に適します。



被覆尿素肥料の畦内施肥

現地におけるコマツナ3作1回施肥の収量指数



被覆尿素肥料と畦内施肥を組み合わせることで、コマツナ3作分の窒素施肥量を3割削減した1回の施肥でも、速効性化成肥料を毎作施用する栽培とほぼ同等の収量を得ることができました。



現地におけるコマツナの3作1回施肥栽培

出典：埼玉県園芸研究所

<http://www.pref.saitama.lg.jp/uploaded/attachment/381528.pdf>